

税理士の ひとりごと

No. 128

寛容になりたい

税理士 齋藤明

そういえば昔いましたね。ロシアの女性デュオも、A.T.U.（タトゥー）なんて歌手が。人気絶頂のなか初来日を果たし、「ミュージックステーション」という生放送の音楽番組に出演するはずだった彼女らが、番組途中に忽然と姿を消してしまい番組は大混乱。その後に行なわれた記者会見でも一切謝罪の言葉はなく、「さすがにヒドイ」と日本中から大バッシングを受けたのです。私の記憶の中では、超人気者から一転大バッシングという事件はあれが最初だったような気がします。

ところが最近では、一転大バッシンググって事案、やたらと多くないですか？ 松本人志さんが文春砲で暴露された飲み会の一件もそう、大谷翔平選手の専属通訳だった水原一平氏の賭博による使い込み疑惑もそう、いやいや、芸能人の不倫報道なんてそんなのばかりではありませんか。しかしそもそも、ひたむきにスポーツに取り組むスポー

ツ選手の姿や、清純な役で純愛を演じていた役者さんの演技を見た視聴者が、勝手にその人に対してクリーンなイメージを持つて見ていただけなのに、「嘘つき！」「ショックです！」「裏切られた気分だ！」なんて言うのは、ずいぶんと独りよがりじゃないかと思うのです。さらに、「善人みたいな顔してテレビに出ていたくせに、けしからん！」「気持ち悪い！」「もう二度とテレビで顔を見たくない！」と匿名で大バッシングの攻撃をするのはアンフェアだと思ふし、理不尽ではないかと思うのです。

もちろん、私だって芸能人の乱痴気飲み会や、違法賭博や横領や、不倫を「そんなの全然問題ないじゃん」と言うほど感覚がズレているわけではありません。不愉快に思っているのは、自分とはまったく関係のない他人のプライバシーに干渉し、なおかつ、執拗に不寛容であること。西洋のように宗教上

の理由から異教徒に対して不寛容であり戦争を繰り返してきた歴史がある国の国民ならまだしも、私たち日本人は自然物や自然現象など無限に近い神がいるという八百万神やおよそのかみを信仰してきた元々寛容な国民であるはずなのです。

災害が起これば「次は自分にも災いが及ぶかもしれない」と困っている人に手を差し伸べて、そして誰かが過ちを犯したなら、「いつか自分だって何か過ちを犯してしまうかもしれない」と、過ちを犯した者とそれを許す者との間に「お互い様」みたいな合意を自然と醸成することができ、そういう国民だったはずではありませんか。

いや、しかし、やはり私は前言を撤回しなくてはなりません。なぜなら私は、考えてみれば今の時代の常識からするとかなりズレた感覚を持った人間だからです。とりわけ私は、最近世の中に蔓延している〇〇ハラ（ハラスメント）というのが苦手で、知らず知ら

ずのうちに様々な〇〇ハラをやらかしてしまっているからです。

ハラスメントとは、性別・年齢・人種・国籍・身体的特徴・職業などについて相手に不快感を与え、尊厳を傷つけることを言うのですが、たとえば飲みに行ったりしたなら、隣に座った人に対して私は普通に「何歳？」とか「どこの国から来たの？」とか「仕事何してんの？」とか聞いてしまいますし、「飲みなよ飲みなよ」と酒を注いでしまったりしているのです。それをもしても相手が不快に思ったのなら私は完全にアウトな訳で、そんな中で私は何とかギリギリ生かされている危うい存在なのです。

そんなハラスメント男のくせに、やはり私は何か事件が起きた後に手のひらを返してパッシングするような人を好きになることができません。もしも私がタトゥーの二人と酒も飲みに行ったら、「ミュージックステーションの

スタジオで何か面白くないことでもあったのかい？ まあ飲みなよ」と優しい言葉のひとつもかけることができると思うのですが、ネット上でパッシングを繰り返すような人とは間違っても酒場でご一緒したくないと思ってしまいう不寛容な人間なのです。ああ、私も知らず知らずのうちに、日本人が本来持つ寛容な心でやつをどこかの酒場の片隅にでも忘れてきてしまったのでしょうか？



Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士登録（東京税理士会支部）。東京税理士会支部所長・日本税理士会経営部委員・医療法人研水会監事。ブログは「波乗り税理士・波に乗るか？」<http://blog.livedoor.jp/saiki555/>

【近況】朝の出勤前にサーフィンに行くのが気持ち良すぎてやめられません。しかし私の鼻の副鼻腔は海水が入りやすい構造らしく、その後お客さんと会っている時に突然鼻から海水が出てきたりして、実にカッコ悪いのです。